

# 神戸女学院大学音楽学部

# アウトリーチ



**第4号**  
**2006年8月25日発行**  
 年4回発行  
 神戸女学院大学音楽学部  
 アウトリーチ・センター  
 〒662-8505  
 西宮市岡田山4-1  
 電話・FAX：0798-51-8584

神戸女学院大学音楽学部教授  
 アウトリーチ・センター・ディレクター  
 津上 智実

## 五嶋みどり、仲道郁代の両氏が アウトリーチ教育 アドヴァイザーに就任！

今年度の「神戸女学院大学音楽学部  
 アウトリーチ教育アドヴァイザー」に、  
 ヴァイオリニストの五嶋みどり、ピア  
 ニストの仲道郁代の両氏をお迎えし  
 ました。

お二人は演奏の第一線でステージ  
 活動をダイナミックに展開されると  
 同時に、音楽という財産を地域の人々  
 に広く深く浸透させるための活動を  
 積極的に続けていらつしやいます。  
 そのようなお二人のレクチャー・コン  
 サートに接すると同時に、親しく膝を  
 つき合わせて議論する場を持つこと  
 は、音楽を学ぶ学生たちにとって大き  
 な刺激と励ましになることでしょう。  
 どうぞご期待ください。

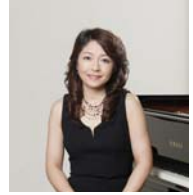
### 五嶋みどり



撮影：Anthony Parmelee

一九九二年以降、日米で「Midori & Friends」NPOミュージック・シェアリング「Midori Center for Community Engagement」等組織を設立。社会とつりわけ子どもたちに音楽を浸透させるための活動を精力的に展開している。

### 仲道郁代



撮影：谷古字正彦

一九九二年以降、日米で「Midori & Friends」NPOミュージック・シェアリング「Midori Center for Community Engagement」等組織を設立。社会とつりわけ子どもたちに音楽を浸透させるための活動を精力的に展開している。

### 五嶋みどり十

#### 養護学校プロジェクト

今年度新たに取り組み始めた長期プロジェクトの一つ、五嶋みどり十養護学校プロジェクトがいよいよ始動しました。

まずアウトリーチ履修生がこやの里養護学校を訪問。小学部の音楽の授業を見学し、自己紹介の演奏を披露しました（五月十九日、六月二日と十九日）。



《小さな世界》演奏  
 （提供：ミュージック・シェアリング）

五月二十六日（金）にはこやの里養護学校の在宅訪問教育部が春の遠足として女学院を訪問。アウトリーチ履修生によるミニ・コンサートを楽しみました。（詳細は本通信四ページ参照）

さんが子どもたちの列深く入って演奏やお話する姿に触発されて、学生も曲の冒頭からどんどん子どもたちの中に入っていたのにはびっくり！何と吸収の早い学生たち！うれしき驚きでした。

みどりさんたちの今回のコンサートのテーマは「ロンド」で、ロンド主題をいろいろな形でくりかえし演奏したり一緒に歌ったりして、子どもたちの体の中につかり染み込ませたあと、五嶋さんがバツハの《ロンド風ガヴオット》を演奏。例年以上にいいねいな取組にプログラムを進化を実感した。一コマで



ディスカッション風景

コンサート終了後、女学院に移動して、五嶋さんと履修生で議論の場を持ちました。今日のコンサートやアウトリーチの取組について、学生から次々と感想や質問が出て、それらにみどりさんが一つ一ついいねいに答えて下さって、充実した時間となりました。

今後、こやの里養護学校とはさらに交流を深め、夏休み中に学生がそれぞれのプランを提示し、双方で検討の上二学期以降こやの里養護学校の教室で実施していく予定です。初めての試みにご協力くださるこやの里養護学校、またこのような連携を強力にバックアップして下さいましたミュージック・シェアリングに御礼申し上げます。

仲道郁代公式ホームページ  
<http://www.ikuyo-nakamichi.com>

五嶋みどり公式ホームページ  
<http://www.gotomidori.com>

# 子どものための コンサート・シリーズ

## 第十四回 セタコンサート

七月一日(土)、

本学講堂にて

「子どものためのセタコンサート」(子どものためのコンサート)シリーズ第十四回)を開催しました(第一部・十一時、第二部・十五時、来場七百八十名)。

「音楽によるアウトリーチ」履修生(四回生)十一名と賛助出演の二名の計十三名が出演。織姫と彦星の別れと再会のオリジナル・ストーリーと演奏、さらに聴衆を巻き込む演目を組み合わせたプログラムを展開しました(音楽・谷田奈央(織姫)、海老原ゆかり(神様)、高林保子/フルート・上原梨絵(彦星)、今井さつき、山上綾華/打楽器・橋本麻衣//賛助出演/オル



全員合奏

ガン・川勝さちこ/ピアノ藤村真代、西村遥子、白坂亜紀、谷優以子、草島玲奈//賛助出演)。

演奏曲は、定番の《セタさま》に加えて、ヴェルディ《乾杯の歌》や武満徹《島へ》、カステレド《フルート吹きの日》など、セタとは関係のない曲もストーリーの力で盛り込むことができ、バラエティーに富んだものになりました。マリンバのソロで演奏したハチャトリアンの《剣の舞》では、素早いマレット(ばち)の動きに、子どもたちの目がくぎづけになっていました。《ドレミ・カードで一緒に演奏



ドレミ・カードで一緒に演奏

レミの歌で子どもたちを舞台上に上げてトーン・チャイムと一緒に演奏したり、

全員で色紙を使って演奏に参加してもらう場面も設けました。色画用紙には色ごとに「ド」「レ」「ミ」と音名が書いてあり、歌の中でその音が出てきたら色紙を高く上げてもらうという方法でした。このコーナーは非常に好評で、子どもたちがとても楽しそうに参加している様子がステージからもよくわかりました。



マリンバの体験

ム、マリンバ、オルガン、ピアノに触れてもらいました。

お客さまからは「ほのぼのとした温かみのあるコンサートだった」、「ドレミの歌に全員で参加できたのが楽しかった」といった声を頂きました。



籠に飾りつけ

終演後には体験コーナーを設け、子どもたちに五種の楽器(フルート、トーン・チャイム、ピアノ)に触れてもらいました。

裏方を支えるスタッフも、前回からの申し送りで照明を効果的に用いたり、インカムを駆使して連絡を取り合いながら進行したり、また前進しました。ハプニングにも素早く臨機応変に対応してくれたので、出演者は舞台上に集中することができました。

出演者が教育実習や学校行事などでなかなかそろわず、練習や準備に苦労しましたが、曲目・台本・司会・衣装・大道具など全てを自分たちで考え、コンサートのために毎日頑張ったことは、今後のための大変よい経験になりました。

(谷田奈央・記)



出演者・スタッフ一同

# アウトリーチ実習報告

## 神戸市立本山第二小学校

七月十日（月）、神戸市立本山第二

小学校（上平和明校長、音楽担当・後中恭子先生、中村せい子先生）体育館で、一〜三年生（約六百名）、四〜五年生（約四百名）を対象に「アンサンブルを楽しもう」と題したアウトリーチを行いました



演奏風景



リコーダーと合同演奏

ム全体のゴールを何にするかを決めるのが大変でしたが、皆で知恵を出し合い、「アンサンブル」とすることで流れができました。

最後に、小学校側からのリクエストで、小学生がリコーダーで学習している《走れシベリア鉄道》と《ア

メージング・グレイスマ》を合同演奏しましたが、フルート専攻生からリコーダーへのアドヴァイスが飛び出し、これに小学生たちが反応して非

常に集中して演奏してくれました。その結果、会場が本場にひとつになって演奏することができました。

ワークショップで学んだ「音楽教育」に立脚したコンサート、という新しい視点から取り組むことができたのは、重要な糧になりました。



ドレミの歌

ビラウス先生ワークショップと時期が重なっていたため（本通信五ページ参照）、先生の助言に基づいて、七タコンサートで好評だった《ドレミの歌》を取り入れました。プログラ

りました。

（白坂亜紀・記）

## 大阪市立総合医療センター

五月十二日（金）、大阪市立総合医

療センター（大阪市都島区都島本通二丁目十三番二十二号）さくらホールにてミニ・コンサートを行いました。これは「健康フェスタ2006」病気とうまくつき合い、自分らしく生きる」の一環として同センターが企画下さったもので、立派なポスターが大阪市内全域の地下鉄の駅などに掲示され、神戸女学院大学音楽学部および



午前にはフルート三本と歌、ピアノで

「音楽によるアウトリーチ」の名前もすっかり入れて頂きました。

コンサートでは患者さんおよびエステの来場者を対象に、午前の部「フルートで春の音楽を！」（声楽・谷田奈央／フルート・今井さつき、上



午後はフルート・デュオで

原梨絵、山上綾華／ピアノ・西村遥子）午後の部「映画音楽をフルートで！」（フルート・今井さつき、絹田朋子非常勤講師／ピアノ・白坂亜紀）の二回、各三十分の演奏を行いました。

幅広い年齢層の方々に楽しんで頂くこと、《早春賦》《荒城の月》などの日本の歌、映画音楽《サウンド・オブ・

ミュージック》、オリンピックで一躍有名になったオペラ・アリア《誰も寝てはならぬ》など親

しみやすい曲を盛り込みました。その甲斐あって皆さん一緒に歌ったり手拍子をして下さったり、お客様との一体感を感じることができましたし、そのお蔭で私たちの演奏も練習時にくらべてはるかに曲想豊かなものとなった気がして充実感がありました。終演後には「すばらしい一時を過ごせた」、「心が洗われた」などのうれしい言葉も頂きました。総合医療センターの皆様、ありがとうございました。

（今井さつき・記）



第四回

エドワード・ビーラウス先生  
「アウトリーチ基礎教育」



授業風景

この七月、ニューヨークのジュリアード音楽院からエドワード・ビーラウス先生を本学に

お招きして、アウトリーチの基礎教育のワークショップを二週間にわたって実施しました(七月三〜十四日)。

ビーラウス先生はジュリアード音楽院の作曲科主任教授で、作曲の分野でも活躍ですが、同時に音楽教育においても優れた卒業生を多数送り出して大きな成果を上げておられます。一九八〇年代に同音楽院で「Insights into Learning: An Introduction to Music Pedagogy」という授業を立ち上げた創設メンバーのお一人で、今後もこの科目を担当しています。昨春秋、

ニューヨーク視察の際にこの授業を実際に教室で拝見したのがきっかけとなって今回の来日が実現しました。

まず七月一日(土)、アウトリーチ履修生が出演する「子どものための七夕コンサート」を見て学生の様子を把握して頂きました。七月三日(月)には講堂で「現代アメリカ音楽の潮流」エリオット・カーター、ステイヴ・ライヒ、ジョージ・クラム」と題する講演をして頂いて、その際、自作の《Lucid Dreams》なども紹介されて



曲のイメージを絵で表現

格好の講師紹介となりました。七月三日から二週間にわたって毎日九十分

のワークショップを十回行いましたが、その基本方針は「まずは経験すること、知識を与えるのはその後

で」というもの。まずは素材と付き合っ



完成した絵

が行う創造行為を体験し、その上で芸術作品に接することで、自ずからその意味や意義が分かるようになるという考え方です。それを抽象絵画やコンテンポラリーダンス(協力:音楽学部舞踊専攻)といった音楽以外のジャンルで試



描いた絵について意見交換

しました。

実際の授業プランにおいては、明確な目的を立てて、それで全体を貫くことを強く求められました。あれもこれもと盛り沢山なコンサートにするのではなく、一つの概念をきつちりと教えることに重点を置くという形です。その目的を達成するための切り口を見つけ、またそれにふさわしいアクティヴ

イティを考案するところまでを、ストライヴンスキーの《兵士の物語》を例



舞踊専攻の学生さんと

最終日のデイスカッションに端的に現れていました。今後も来日の機会があります。ビーラウス先生にはぜひ再度ワークショップをして頂きたいと思

に二グループに分かれて実践しました。

学生たちは絵を描いたり体を動かしたり、また普段それほど馴染みのない現代音楽について考えたりといった活動に、始めはやや戸惑いながらも積極的に取り組んで、最終的には非常によい学びとなった様子です。それは



ビーラウス先生

なお、今回の講演会ならびにワークショップについては、大学院英文学専攻通訳・翻訳コースの皆様から全面的なバックアップを頂きました。入念な準備に裏打ちされた見事な同時通訳で、学生とビラウス先生との意思疎通を円滑に行って頂きましたことに感謝申し上げます。

(津上智実・記)



全員で

日本教育大学協会全国音楽部門大学部会

神戸女学院大学(特色G P)

「音楽によるアウトリーチ」視察

七月七日(金)、日本教育大学協会全国音楽部門大学部会(代表:久保田慶一大学部会特別委員会委員長、東京学芸大学教授)の会員十六名が、同協会の研修の一環として神戸女学院を訪問し、アウトリーチ活動を視察しました。

まず、女学院のアウトリーチ活動の



フリー・ディスカッションの様子

目的と経過、様子について授業担当者兼ディレクターの津上から概要説明

(六十分)を行い、アウトリーチ・センターなど学内見学の後、ミリアム館のスタジオでビラウス先生ワークショップを見学しました(九十分)。その後、ビラウス先生の芸術教育に関するミニ講演(三十分)とフリー・ディスカッションとなり、視察を終えての感想や意見、アウトリーチ教育における問題点や展望などについて、予定時間を大幅に越えて活発な意見交換がなされました。

(寺澤彩・記)

マンハッタン音楽院から  
教育アウトリーチ・  
ディレクターが来訪

六月二日(金)、米国ニューヨークのマンハッタン音楽院から教育アウトリーチ担当ディレクターのレベッカ・チャルナウ氏が本学を来訪し、授業「音楽によるアウトリーチ(実習)」のゲスト・ティーチャーとしてお話し頂きました。マンハッタン音楽院ではオーケストラとジャズの院生はアウトリーチが必修で(オペラ科生は選択)、一〇〇五―二〇〇六年度の活動内容をまとめた映像を見せて頂いた

ところ、大変ダイナミックな活動が展開されていきました。市内の小中学校と提携を結び、管楽器、弦楽器、打楽器のプログラムを派遣した後、今度は子どもたちが音楽院を訪問してオーケストラの演奏を聞くという立体的な構成です。学生が子どもたちと一緒に音楽劇を作って最後に発表する舞台もあり、本当に楽しそうでした。提携校の小中学校には依頼料(Contribution)として三百ドルから七百ドルを払ってもらうそうですが、そうすることで小学校側の取組が違ってきて事務連絡などが円滑になるというお話は新鮮でした。

その後、こやの里養護学校の授業見学にも同行され、自己紹介としてアメリカの作曲家スコット・ジョップリン作曲の《ラグ・タイム》をピアノで演奏。パンチの効いたリズムに小

授業風景

学部の子どもたちも体を動かしながら楽しんでくれました。

(絹田朋子・記)



## アートマネジメント

今年度新設された授業の一つ「アートマネジメント」（担当：藤野一夫非常勤講師）では、内外で活躍するアーティストや関係者をこの前期に三回、ゲストスピーカーに迎えてスケールの大きな授業が展開されました。

第一回（五月十五日）はイタリアと日本で活躍するテノールの佐野成宏氏、ピアノのみならず指揮でも活躍の佐藤正浩氏を迎えて演奏とお話を頂きました。人との出会いの中で才能が見出され開花していくお話、そしてお二人のすばらしい演奏にほればれと聞き入った九十分でした。

第二回（六月五日）はヴァイーン在住のピアニスト古澤京子氏をお迎えし



佐藤正浩氏（左）、佐野成宏氏（右）

て、ヴァイーンの音楽生活について、また伴奏ピアニストという職業の役割と重要性について、写真をたっぷり使いながら楽しいお話を頂きました。

第三回（六月二十六日）は兵庫県立芸術文化センターの制作課長でアウトリーチ担当の山口昭彦氏がお越し下さって、昨秋の開館以来の多彩なイベントについて具体的なお話伺いました。ホールに親しみをもちつてもらうために、また地域の活性化のために、地元商店街などと連携してさまざまな工

夫をしていらつしやるのがよく分かりました。

芸術と社会を考える充実した講義に加えて、このような出会いの場を生たちに与えて下さった藤野先生に御礼申し上げます。

（津上智実・記）

## 日本音楽表現学会

### 第四回大会シンポジウム参加

六月十七日（土）～十八日（日）、日本音楽表現学会第四回大会（グリーンアベニュー大会）が岡山大学五十周年記念会館で開催、本学からは津上絹田、早野の三人が参加しました。

まず五嶋みどりさんの基調講演「これからの音楽家の理想の姿」では、音楽には人々の共通理解を築く力があり、その力を発揮するためには、ただ演奏するだけでは十分ではないこと、それなりの訓練が必要であることが主張され、アメリカのロサンジェルスでこの六月末にそのためのセンター（The Midori Center for Community Engagement）を立ち上げるという発表がありました。

続くシンポジウム「音楽家の活動ーコミュニティ・エンゲージメント」では岡山大学の奥忍先生の司会のもと、



シンポジウムの様子

五嶋みどりさん、元天理小学校音楽教師の松本勤先生と本学の津上智実先生の三人がパネリストとして参加。まず神戸女学院でのアウトリーチ活動を映像とともに紹介し、次に松本先生から天理小学校での音楽実践とその成果が披露されました。「アウトリーチ」と「コミュニティ・エンゲージメント」という用語と

定義の問題、音楽大学と教育大学との相違に関する問題、地域性の問題などが議論され、フロアからも質問が相次ぎました。

大会ではこの他に各種発表とワークショップが行われ、尺八のワークショップに参加したり、いろいろと学ばせて頂きました。

このような有意義な機会を与えて下さいました日本音楽表現学会および岡山大学教育学部の関係者の皆様にお礼申し上げます。

（絹田朋子・記）

バンブーフルート  
(日本の竹の笛たち)

六月十九日(金)、神戸女学院大学と長年交流のあるワイオミング大学のオナープログラムの一環として、学生さんと先生方十二名を迎えて「バンブーフルート(日本の竹の笛たち)」と題した交流会を行いました。



尺八と楽譜

絹田先生は朱色の着物姿で登場！尺八の説明や演奏のほかに、横笛、さらには透明のホースを使った手作りホース・フルートの演奏を披露しました。

また音楽だけでなく、日本の伝統生活にまつわる竹製品を紹介。日本音楽と日本文化に皆さん興味津々な様子で、楽しい交流会となりました。

(寺澤彩・記)

◎アウトリーチ

- 8月3日(木) 神戸市立総合医療センター
- 9月7日(木)、11月29日(水) 神戸市立中央市民病院
- 10月12日(木) 西宮市立今津幼稚園
- 10月20日(金) 西宮市立夙川幼稚園
- 10月23日(月) 西宮市立上ヶ原幼稚園
- 12月18日(月) 雲雀丘学園小学校

◎子どものためのコンサート・シリーズ

- 10月21日(土)  
「子どものためのオルガン・コンサート」
- 12月16日(土)  
「子どものためのクリスマス・コンサート」

\*\*\*\*\*

◎講演会・ワークショップ

- 12月8日(金) 仲道郁代講演会

♪音楽をお届けします♪

「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。大学やホールといった従来の枠にとられずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター  
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL & FAX : 0798-51-8584  
E-mail : outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

多彩なイベントがめじろ押しで、色々なことを感じる事ができました(早野)  
次々とやってきた盛りだくさんな行事。学生とともに全力疾走したような気持ちです!(寺澤)  
充実の四ヶ月でした。みなさまに支えられて私も頑張ることができました(松川)  
学生さんの頑張りにも拍手を送りたいと思います。スタッフもよく働きました!(中村)  
怒涛のような日々もすべて、なにものにも代えがたい糧となることでしょう(革島)  
アウトリーチを通して新たにたくさんの人々に会うことができた四ヶ月間でした(絹田)  
新学期から七月まで、非常に密度の高い四ヶ月でした。皆よくぞ音を上げずについてきてくれました。ありがとう!(津上)